

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社安寿		
事業所名	グループホーム花咲小町 (小町)		
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	令和2年10月15日	評価結果市町村受理日	令和3年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102848-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102848-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和2年10月31日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム花咲小町の理念にある「自然の恵みを受けてありのままに」の精神の意味とする、新鮮な空気・太陽の光・温かさ・清潔さを適度に保ち、食事を適切に管理することにより利用者様の生きる力を引き出し、心身の活性化に繋がれること。そして、利用者様のありのままを受け入れ、最後までその人らしい人生を送ることが出来るように援助します。終末期は家族様と一緒に過ごせるように配慮し、安らかな死を家族様に見守られながら迎えられるように職員一同、尊厳と誠意を持って援助させて頂いています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周辺に田畑が広がる自然豊かな地にある。ホームの農園で野菜を育て、それらも食材に利用しながら、三食とも手作りの食事を提供している。利用者も食事の準備に加わり、調理方法を話題に楽しい食事時間を過ごしている。ケアマネジャーである管理者は看護師でもあり、利用者の健康状態を常に把握し、医療機関との連携も充実させている。開設当時は、利用者と家族が共に過ごす時間が多くあったが、現在は家族構成や暮らし方も変化し、現在のコロナ禍においては、家族との信頼関係作りが難しい状況にある。管理者と職員は、利用者の望むことや思いを汲みとり、最善の支援ができるよう一丸となって取り組んでいる。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(小町)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自然の恵みを受けてありのままに」を理念に、自然豊かな地域の中で利用者様のありのままの姿を受け止め、喜びや生きがいを感じる事ができるような寄り添いながら、日々の暮らしの中で支援している。	理念は職員の目に付きやすい場所に掲示し、日々、理念を意識して支援に取り組んでいる。常に利用者寄り添い、思いを受け止めながら支援している。また、ケア方法を振り返り、新たな気づきについても話し合い、職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	管理者は地元暮らし、地域の行事や清掃活動に参加している。また、地区の文化祭に利用者様の作品を出したり、散歩の際には近所の人とあいさつを交わすなど、地域の一人として生活している。現在は新型コロナウイルスの影響により自粛している。	利用者の多くが地元の住民であり、地域行事には、住民の一人として参加しており、地域や住民とのつながりも深い。介護体験の場として、学生の受け入れ等も行っていたが、現在は、新型コロナウイルス感染症予防のため、地域との様々な交流を自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の福祉の相談を受けたり、地域活動では認知症の予防やリハビリ体操などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政、地域関係者、家族等の参加を得て運営状況やホームでの様子、行事などをお知らせし、皆様から素直な意見を伺い、話し合いながら良いサービスが出来るように日々努力している。現在は新型コロナウイルス感染症予防対策として書面にて郵送で報告し意見を求めている。	運営推進会議は多くの参加を得て隔月に開催し、行事を兼ねて実施することもあった。家族も利用者の状況と取り組み内容を理解し、意見交換をしていたが、現在は、新型コロナウイルス感染予防対策として、書面会議とし、会議メンバーに文書を郵送し、意見を求めた上で報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で市の担当者に助言や指導を頂きながら協力関係を築けるように努めている。現在は新型コロナウイルスの影響により運営推進会議は実情報告を郵送にて実施し意見を求めている。	市担当者から地域高齢者の状況を聞いたり、運営状況の報告や困難事例を相談し、助言を得ている。現在は、電話やメールで相談することが多く、行政からの新型コロナウイルス対策についての情報メールを確認しながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに努め、拘束の弊害についての研修を定期的に行い理解を深め、利用者の状態に応じた福祉用具を活用し見守りながら安全に配慮した支援を行っている。	身体拘束廃止委員会を定期的開催している。全職員が身体拘束及び拘束の弊害について、研修で正しく学んでいる。また、言葉による拘束「スピーチロック」についても具体例を挙げて話し合っている。利用者の状態に応じて、目配り気配りに努め、安心・安全な支援方法に努め、拘束ゼロに取り組んでいる。	
7	※	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者の指導のもと、入浴時の身体状況や小さな怪我などを見逃さずことなく、職員間の情報交換等のより早期発見と防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて成年後見制度を学んでいる。利用されている方もあり、またご家族様から相談されることもあるので、資料を参考にアドバイスをしている。		
9	※	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には利用者やご家族様の不安や疑問に丁寧にお答えし、書面を持って説明している。また、ホーム内の生活の様子や職員の態度等を実際に見て頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事予定表と共に「花咲小町たより」を毎月ご家族に送付している。日頃から利用者の日常生活をご家族様に伝え意見や要望を聞くなど、気軽に話ができるような関係作り心がけている。また、玄関には意見箱を設置し第三機関の苦情窓口を提示している。	毎月、家族に行事報告や予定などを記載した「花咲小町たより」を送付している。また、管理者は、コミュニケーションアプリLINEを活用し、家族と意見交換も行っている。家族の訪問時には、職員が時間にゆとりを持って意見交換をし、意見等を運営に反映させている。	事業所は、利用者の入居後も、家族との関係継続を支え、面会の機会を出来るだけ多く持てるよう話し合っている。現在は、コロナ禍にあり、制限の多い日常ではあるが、今後も利用者の笑顔につながる取り組みの継続に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は普段から現場に入っており、日常的に職員の意見や要望を受け止め意見交換を行っている。また、備品の不具合や利用者様についての課題など、本人本位のケアを実践できるよう情報を共有し支援ができるよう努めている。	管理者は職員と共に現場に入り、ケア業務を担当することで、職員の様子や利用者の状態を把握している。互いに「何でも気が付いたことは教えてください」という関係性が出来ており、職員も自分の気づき等を管理者に伝えている。職場環境や就業環境が整備されていることから、職員が知人を事業所に紹介するなど、より良い運営に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の導入により、職員が向上心を持ちお互いに協力しながら働けるように努めている。また、職員のワークバランスに配慮しメンタルサポートに取り組んでいる。		
13	※	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに業務の担当があり、責任ややりがいに繋げている。また、資格取得や研修等は個人の経験や能力に応じ参加している。その為の 休暇や費用は会社が負担している。		
14	※	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や各会議等を介して知り合った他施設の方の見学や意見交流が出来るように便宜を図り、サービスの質の向上に反映させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が歩んできた人生や入居に至るまでの環境並びに経過を知ることから始め、本人やご家族様の不安や要望に耳を傾け、寄り添いながら安心してその人らしい暮らしができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの家族様の思いを受け止め、不安や要望など気兼ねなく話して頂けるような雰囲気にも努めている。また、家族間での思い違いに着目し、それぞれに合った対応し信頼関係を築いている。入所初期には利用者様の様子を電話等で伝え安心して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様の実情や要望を見極め、他のサービス利用も視野に入れ必要とする支援を安心・納得した上で可能な限り希望に沿った支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のありのままを受け止め、喜びや生きがいを感じることができるよう「介護する・される」という関係ではなく、共に過ごし学び、支えあうという関係を築き一緒に生活をしている家族として安心して生活を送ることができるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を一番に支えるのはご家族様であるという考えのもとに、ご家族様の考えを受け止め、本人とご家族様との関係を深めるように支援し、共にご本人を支えていけるよう協力しあえる関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問者が気兼ねなく面会に来られるよう雰囲気作りにも努め、面会時には場所を考慮して換気をこまめに行い3密を避けた環境作りを工夫し関係維持を支援している。また、ご家族や馴染みの人との手紙や電話のやり取りを支援しコロナ禍であっても関係が途切れないよう努めている。	交通の便が良い立地にある事から、家族の訪問も多く、利用者の孫娘が、成人の日に晴れ着で訪問する事もあり、記念写真を居室に飾っている。コロナ禍での面会は3密を避けられるよう工夫し、家族との関係を保っている。また、手紙でのやり取りや携帯の使い方を手ほどきするなど、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を配慮した席の位置や活動の参加の仕方を考慮しつつ、利用者の性格や行動を把握することにより、孤独やトラブルを防ぎ、利用者同士が助け合い穏やかに関わりが持てるように見守り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も時候の挨拶の葉書を送る等、関係を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や人生経験を知り、会話、表情などから思いや意向を把握できるように努めている。また、困難な場合は、家族からの情報を得たりして、その人らしく穏やかに暮らせるように支援方法について日々話し合い模索している。	職員は、テレビや新聞記事の内容について、利用者と言葉を交わしながら、本人の思いや意向をさりげなく聞き出している。利用者一人ひとりに寄り添い、表情を見ながら、その人が望む暮らし方の把握に努め、困難な場合は、更にゆっくりと時間をかけるよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活史を作成することにより、今までの暮らしを理解し、その人らしい毎日が過ごせるように常に寄り添いながら支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人別に介護記録を作成し、健康状態や行動記録を記載している。また「利用者の出来ること、出来なくなってきたこと」を把握できるように意識し、職員が共有することによって適切な支援を提供できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員がそれぞれの担当利用者の状況や課題点をまとめサービス担当者会議及びケースカンファレンスで持ち寄り職員全員で検討し共有している。また、ご家族様の意見も取り入れながら、それらを計画に反映させている。必要に応じて柔軟に見直しを行っている。	担当職員が利用者の状態を常に把握し、職員間で共有している。管理者がケアマネジャーでもあり、利用者の日頃の状態を家族に伝え、意見交換を行っている。家族の意見や希望を尊重し、医師の協力を得て職員全体で話し合いながら、介護計画を作成している。	
27	※	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事や気づきを個別記録に記載し、ケアの実践や本人の様子の変化を職員で共有し、見直しや評価に活用している。また、職員間の申し送りを確実に行う為、申し送り表を作成し介護士・看護師が情報共有できるようにしている。		
28	※	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様や利用者の心身の状況やその時のニーズに合わせて臨機応変にサービス提供に取り組んでいる。また、重度化や終末期・看取りを医療との連携において実現している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方やボランティアの方々の協力のもと、一人ひとりが社会の一員として安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように事業所全体で支援している。現在は新型コロナウイルス感染予防の為、外部との接触は自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人やご家族の意向に沿って個別に選択している。医療機関の受診の際には看護師が同伴し家族と一緒に説明を受け医療情報を共有している。緊急時には職員が柔軟に対応している。また、職員として看護師の配置もあり適切な医療を受ける支援をしている。	契約時に、かかりつけ医について説明し、本人・家族の理解を得ている。従前のかかりつけ医継続も多く、個々に訪問診療を受けている。協力医は月2回の往診がある。医療機関への受診は、看護師が家族に同行して利用者の状態を医師に説明している。緊急時は、医師と看護職員が連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており介護職員と情報を共有し、利用者様の健康状態を常時観察し状態変化に迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には看護師が必ず付き添い情報を提供している。入院中も現在の病状を病院スタッフに聞きながら病院主治医・看護師・ソーシャルワーカー・かかりつけの医師らと連携して早期退院に向けて話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期についての指針を説明し同意を得るようにしている。本人やご家族様の思いを尊重し、状態の変化に応じ医師や関係者と話し合い最後までその人らしく穏やかに過ごせるように支援している。医師・看護師・介護職員が24時間体制で連携し、家族様の協力を得て看取りケアの支援を行っている。	契約時に、重度化や終末期についての指針を説明し同意を得ている。利用者の状態に変化があった場合は、早い段階で関係者が話し合いを行っている。職員も終末期に向けたケアについて、研修を積み重ねている。看護師を職員として配置しており、24時間体制で医師と連携しながら、家族の協力も得た上で、最後まで穏やかに過ごせるよう支援している。	
34	※	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルが作成しており、緊急時に適切な行動ができるよう研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、運営推進会議同日に実施し自治会長様やご家族様等の協力を得て避難訓練を行い、器具の取り扱い、関係機関への通報、誘導など確認している。今年は新型コロナウイルス感染予防の為、職員と利用者のみで実施している。	年2回、夜間想定を含めて、火災、地震、水害の防災訓練を実施している。運営推進会議開催時と併せて実施し、家族や近隣の理解と協力を得ている。近隣とは、日常的に災害時の避難について話し合っている。備蓄の食糧を訓練時に試食し、その都度、補充している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や価値観を尊重しながら、ありのままの人柄を受け入れ笑顔で寄り添いながら信頼関係を築いている。利用者の着替えや排泄支援にはプライバシーと羞恥心に配慮している。	利用者の生活歴や、それぞれの価値観を尊重した支援を実践している。職員は、利用者とは話をする時には誇りやプライバシーを損ねないよう努め、寄り添いながら、笑顔を引き出すよう心がけている。トイレや浴室は羞恥心とプライバシーに配慮した設営になっている。	
37	※	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、十分に意思表示が出来ない利用者様であっても表情や全身での反応を注意深くキャチし本人の意図していることを理解できるように努めている。常に主体性を持つことが出来るように簡単な選択肢を持って話をするように努めている。		
38	※	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活習慣を尊重し、その人らしい暮らしが継続できるように可能な限り柔軟な対応を心掛け一人ひとりの生活リズムに合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりや好みを尊重し、季節にあったおしゃれが楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや嚥下状態を把握し、個々に合った食形態で提供している。畑で収穫した野菜を使い、季節感や行事のわかる献立にしたり、職員も一緒に食べながら見守りと楽しみながら食事ができている。利用者様には片付けなど出来ることをして頂いている。食事は職員が手作りしている。	事業所で育てた野菜も食材として利用しながら、個々の嚥下状態に合わせて、職員が手作り食を提供している。利用者の農作業経験談や調理方法を聞きながら作業をし、利用者も出来ることに関わっている。季節ごとの献立や行事食、おやつを提供で楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りや水分不足にならないように普段から個々の好みや食事の様子を観察し、体調や体重の増減を測り記録し、個々に応じた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔衛生の仕上げを個々に応じて介助している。また、月2回、歯科衛生士による歯科メンテナンスを必要な方に行い指導を受けている。口腔内の清潔保持に努めている。治療が必要な時は訪問歯科診療が受けることができる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの身体状況や排泄パターンを把握し個々に合った排泄方法やオムツ等を選択し必要な補助具や介助を見極めて排泄の支援をしている。夜間は利用者の状態を見ながら安全面と安眠に配慮して支援している。	職員は、利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が習慣になるよう、声掛けと誘導で支援している。夜間は、利用者の状態に合わせて、適切且つ心地良い排泄用品を選択し、安眠と安全を優先して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の有無や形態・量を確認し記録している。また、排泄パターンを把握し、適度な運動や水分補給、便秘予防の食品等を接収するなどして自然排便を促す工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日は決めているが、健康状態等や汚染時に柔軟に対応を行っている。個々の入浴習慣や好み(入浴の順番や温度など)に合わせて安楽な入浴が出来るよう支援している。リフト浴も備えている。	入浴は、週3回を基本としているが、利用者の希望に応じて柔軟に対応している。入浴支援は、利用者とのコミュニケーションの場でもあり、さりげなく思いを聞いたりしている。個浴が難しい利用者は、リフト浴で、安心安全な環境での入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムやその時々状況に応じて睡眠環境を整えて、安心して眠ることが出来るように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報を確認し個別にセットしてある。薬の誤薬や飲み忘れを防ぐために、その都度、名前・日にちを確認をしている。また、状態変化にも十分留意をしている。		
48	※	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ・カーテンを開ける・食器を拭くなど、その人の能力に合わせて、出来ることを見守りながら行っている。その人に合った役割を持つことで生きがいを持って暮らせるように働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調を考慮しながら天気の良い日には施設周辺の公園を散歩したり、近くの神社にお参りに行ったりして季節を感じるようにしている。また、テラスに出て日光浴をしたりしている。個別の外出希望は家族の協力で行っている。現在は新型コロナウイルス感染予防の為、ご家族様との外出は中止している。	日常は、事業所周辺を散歩し、近くの公園へ行ったり、野菜畑の様子を見に出掛けている。散歩を好まない利用者は、テラスでの日光浴やお茶を楽しんだり、庭の散歩等で気分転換を図っている。今迄は、年間行事計画での外出や、家族の協力を得て個別外出等をしてきたが、現在は、それも中止している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じ自己管理されている方もいる。お金の執着される方には、ご家族様の協力のもと少額を持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ電話は必要に応じてに使用ができる。携帯電話を持っている方もおり家族との会話を楽しんでいる。また、時候の葉書を職員と一緒に作成し家族に届くように支援している。お孫さんからお手紙が届くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感を刺激し一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら安心して安らぐような空間が保てるように配慮している。窓越しに外の景色を眺めると季節を感じるができる。リビングには皆様が作った作品が掲示されている。感染予防の為、日頃から窓を開け閉めして空気を入れ替え居心地の良い環境作りに努めている。	共用の空間は広く、車椅子利用者も安全に移動ができ、食事場所とリビングも区別されている。食卓テーブルには、感染予防の為の仕切りを設けている。リビングには、利用者の作品や写真等を掲示し、窓を開ければ、日常生活を送る住民の声も聞こえ、外の景色を眺めながら季節を感じられる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの性格により気にいった場所がありお互いがストレスを感じることがないように配慮し、それぞれが気にいった場所や、気の合った仲間同士くつろげる場所を作り思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の部屋が分かりやすいように工夫し、本人が安心して暮らせるように今まで使い慣れた家具や寝具、好みの小物を持ち込み、家族や思い出の写真・好みのお花を飾ったり、テレビを置いて楽しむなど、居心地よく過ごしている。	居室入り口には、利用者が分かり易い表札がかけられ、個々の部屋の目印になっている。ベッドは、利用者の身体状況に合わせて配置し、使い慣れた小物や家具を持ち込み、家族の写真や花を飾り、居心地よい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭的で温かい雰囲気大切にしながら、安心・安楽な環境を作り、一人ひとりが無理がなく活動できるように支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	(有) 安寿		
事業所名	グループホーム 花咲小町 (式部)		
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	令和2年10月15日	評価結果市町村受理日	令和3年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(式部)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、入り口横に掲示、「自然の恵みを受けありのままに」自然豊かな地域の中でありのままの姿を受け止め日々の暮らしの中に、喜びや生きがいを感じられるよう職員全員で支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者は、地元暮らし、職員も地域の者が多く地域の行事や清掃活動、防災訓練など参加している。また、地域文化祭に、作品を出展したり、当施設の夏祭りなどに、近所の方に声を掛け参加していただいている。※今年度は、コロナの感染予防の為縮小している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の実戦経験を生かし、地域の方からの福祉相談を受けたり、地域活動の場では、認知症予防やリハビリ体操など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行われる、運営推進会議で事業所の取り組みや利用者の生活ぶりを報告し、その中から出てきた意見をそれぞれに持ち帰り協議し、より良いサービス向上に取り組んでいる。現在は書面にて行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者には、運営推進会議に出席いただきその際などに、相談、助言、指導いただいたり、密に連絡を取り合い、協力関係を築くよう取り組んでいる。現在は書面にて行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者および職員は、身体拘束の弊害について、定期的に委員会を開き、研修を行い、理解したうえで、自己点検シートを参考にし、見守りの強化など工夫し拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者指導の下、「高齢者虐待防止法」について、研修を行っている。入浴時の身体異常や日常生活での変化など注意して見守り、職員同士でも小さな傷など注意し見過ごしがないように早期発見と防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で研修を行い制度について理解している。当施設で、現在1名の方が成年後見制度を利用されていますし、以前も利用されている方がおられました。また、相談されることも有り助言し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、利用者、家族等と面談し納得していただけるよう充分説明し理解いただき、書面をもつて同意していただいている。また、契約前に、施設見学をしてもらい、日常生活の様子など見ていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際、近況報告をし家族と話す機会をもち、意見を言える場を持つ。そこで、出た意見や要望を職員皆で話し合い運営や、ケアに反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日々職員と共に現場に入っているため職員の意見や要望等すぐに聞く事が出来る状態に有り、備品の不具合などや、利用者についての相談など、その都度、受け止め対応してもらえる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「キャリアパス制度」導入により職員同士が向上心を持ち努力している。各自、係を持ち責任感を持って働いている。勤務は、希望を聞き一人ひとりに合った日にち、時間帯を調整し支援している。また、その人に合った研修などに参加出来るように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、その人に合った研修に参加させたり、資格取得に、協力的で受ける機会の確保や勤務調整を行い支援している。また、職員同士がお互い教え合い働きながらトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や会議などで、知り合った、他施設職員と意見交流し、知り得た情報を持ち帰り取り入れサービスを向上させるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい環境を作り、その方の歩んで来た人生や入居までの環境や経歴に、耳を傾け、受け止め、寄り添いながら、その方らしい暮らしが送ることが出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心配事、不安などお訊ねしたり、不明な事を、納得いくまで説明しご理解をいただく。また、こちら側からも、利用者の生活の不明点があればお訊ねするようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族より要望をお訊ねし、見守りのなかよりその方の今、必要としている事を見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は、「介護している、されている」という関係ではなく家族として、共に生活し喜怒哀楽を共通し学び合い、励まし合って支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が一番に支えるて居るのは家族の絆であり、職員は、その絆をたち切らないように心がけている。家族にも、身の回り品などの要望や、以前の暮らしについて、お尋ねしたりケアの参考にして支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力をえて、美容院に行かれる方がみえます。近所の知り合いの方が面会に来られることもあります。※現在コロナの感染予防の為面会制限をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者、一人ひとりの性格や行動を見守りの中で把握し、孤立やトラブルを防ぎ、利用者同士が、励まし思いやりを持ち穏やかに暮らしていけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの、関係性を大切にし、必要に応じたケアの情報を伝えたり、継続した関係を大切に支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の協力を得て、以前の生活歴の情報や、見守りの中で利用者の思いを受け止め対応するよう努めている。困難な場合は、職員で検討し本人にとってより良い方法を家族様と共に検討をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活史の作成により、入所以前の日々の暮らしを把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の生活の見守りの中で、その人の有する力や能力のを把握する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度、「サービス担当者会議」が開かれ、利用者の情報を出し合い「ニーズ」、「目標設定」をし、「介護計画」を作成している。3ヶ月に1度「モニタリング」も行っている。状態の変化に伴う変更も行い、状態に即した計画作成をして支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、「介護記録」を作成している。それにより、健康状態、行動、日常生活の様子を把握する事ができ職員で共有している。また、それをもとにし課題を把握することが出来計画作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状態や、その時々ニーズに合わせて柔軟な、サービス提供に取り組んでいる。また、重度化や看取りを行う場合、医療機関と連帯して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や、ボランティア活動の中で、社会の一員として、楽しみを持ち、豊かな生活を送ることが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、「かかりつけ医」について希望の医療機関を選択してもらっている。当ホームの協力医により月2回の往診を行っている。急な体調変化の際など柔軟に対応していただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日々の生活の中で気付いた情報を看護職員に報告し助言、指導を受けたり、常に、利用者の健康状態の変化や急変に対処し、連帯関係を築いて支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際、看護職員が必ず付き添い、必要な情報提供を行い、入院中は、家族、主治医、病院職員ソーシャルワーカーなどと、連絡を取り合って、早期退院に向け支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階より本人、家族の意向を確認し希望に添ったケアが出来るよう支援している。状態の変化に応じ、その都度医師や関係職員、家族と話し合い、最後までその人らしく、穏やかに安心して過ごせるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急時対応マニュアル」が作成されている。緊急時適切に対応出来るよう研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、運営推進会議後に、それぞれいろいろな想定で防災訓練を行っている。自治会長、ご家族にも参加していただいている。安否確認方法や、協力医、薬局との連絡方法なども訓練時確認している。地域との協力体制も築いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、人格を尊重した言葉掛けや、接し方に気を付け対応している。利用者の、更衣や、排泄時など、自尊心を傷つけないよう、環境や職員の対応の仕方など注意して支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、共に生活している中で、利用者が希望や思いを表に出し話し合える関係作りを心がけている。また、利用者が自己決定が出来るような声掛けや、アドバイスをを行い支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活習慣や、その日、その時の状態を把握して、その人のペースに合わせて行動出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みや、季節に合った物で、おしゃれなど楽しむことができるよう、アドバイスなど行い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの持つ力を見ながら、食事の準備などを利用者同士が、声掛け合いながら行うよう支援している。食事のメニューも、利用者の好みなど意見を聞き取り入れている。季節の物や行事での物など積極的に取り入れ支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養バランスを考えたメニュー作成、一人ひとりの状態を把握して、食べれる量や形態を工夫している。食器や使用する物なども、その人に合わせ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けし、その方に合わせた方法で口腔ケアを行うよう支援している。歯科衛生士による訪問の口腔ケアもあり、相談したり指導を受けケアに取り入れ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの身体能力や身体状態、排泄パターンを把握して、適切なトイレ誘導を行い支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の回数や形態など確認して記録している。排便を促すよう食事やおやつなどを工夫している。また、廊下を歩行するなど軽い運動をするよう声掛け支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の混乱を防ぐため、入浴の曜日、時間帯は、だいたい決まっているが、その時の身体状況により臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や、季節などに応じて寝具などを整え、居室内も整備し、心地よく休息したり、睡眠がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり、個別にセットしており、薬の情報も理解している。変更時も、職員同士連絡をし、様子を見る。誤飲がないように、何度も、名前などを確認して渡し、服薬できたか確認しチェックする。また、ゼリーなどを使用し工夫し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食前の、テーブル拭きや、ティッシュペーパーなどの準備、ゴミ箱作りなど、その人の力量に合った役割をされています。皆さん歌を歌うことが好きなので、エレクtronの日を楽しみにされいたり、レクレーションの際のゲームなどを楽しみにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は、皆さんで散歩へ行ったり、庭でイベントを行ったりしている。ご家族のご協力をいただき食事などに出かけられる方もあります。*現在コロナウイルス感染予防のため外出は自粛している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方もありますし、少しの金額を持たれ、毎日、数えている方もありますが、ほとんど使われる事はありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、制限無く要望があれば自由にやり取りできます、また、ご家族の希望で携帯電話を持たれている方もあり、充電が出来なかったり紛失してしまわないよう、職員が管理したりして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は、いずれも、整理整頓がされ、事故やけがのないよう整備している。皆さんが集まるリビングは、広く明るいく、窓も沢山あり空気や風を感じられカーテンなどで光の調節もできている。、トイレなども清潔に保たれるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は、皆さんリビングで過ごされ、座るところや、気の合う方が決まっています話されていますが、皆さんが、話している人たちの話を聞ける感じで、座られ、レクレーションの際も全員に声を掛け一人だけにならないように声掛け支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、本人、家族の希望の物を自宅より持って来ていただいているので、使い慣れた物が置いてあったり、状態に合わせ配置など工夫している。整理整頓、清潔保持に心がけ支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	たとえば、毎日のラジオ体操では、広いリビングで、身体能力に合わせ、立ってされる方、不安定の方は無理せず、いすに座りされる方、毎日欠かさずに行っている。		